

三里松原再生計画策定に係る専門部会（第3回 その1）

日時：平成21年8月27日（木）午後1時から
場所：岡垣町役場 本館3階 大会議室
内容：以下のとおり

三里松原健康診断調査結果について

三里松原内の植生（ある地域を覆っている植物体の総称＝どのような植物が優占して生育しているか）については、次の現存植生図をごらんください。

現存植生図 ラインA ラインB ラインC

調査結果【現況】

クロマツ林は約70%を占め、うち53%は老齢林である。

常緑広葉樹林は約22%、マツ・広葉樹混交林は5%である。

クロマツ林では、マツ枯れ木は伐採されていることから、立ち枯れ木はほとんど無い。

標高の比較的低い（概ね標高20m未満）場所では、クロマツ林の下層に広葉樹が繁茂しており、一部では広葉樹林に変化しつつ林（マツ・広葉樹混交林）になっている。

標高の比較的高い（概ね標高30m以上）場所では、クロマツ林の純林（クロマツ以外の樹木が少ない）になっている。

西部地域は国道周辺に常緑広葉樹林が優占し、クロマツ林が優占する東側地域でも住宅地・国道から見える南側斜面には常緑広葉樹があるため、マツ林の景観となっていない（常緑広葉樹林の景観である）。

植生の概要説明

1. 海岸矮生低木林

海岸近くの砂丘に成立し、風の影響を強く受け、樹高は1m以下でつる性のテリハツルウメモドキが優占し、チガヤ、ハマエンドウなどの草本が混生する低木林。

現存植生図・・・凡例番号：1（うす紫色）



2. 海岸風衝低木林

海岸近くの砂丘に成立し、風の影響を強く受け、樹高は3m以下で、マサキ、トベラ等が優占する低木林。

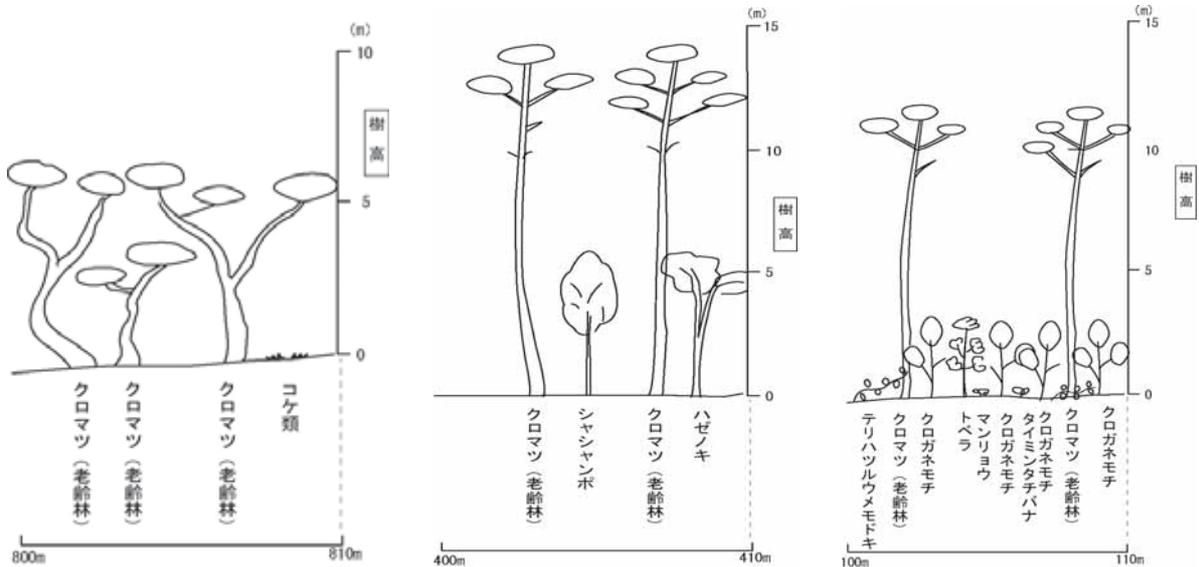
現存植生図・・・凡例番号：2（黄緑色）

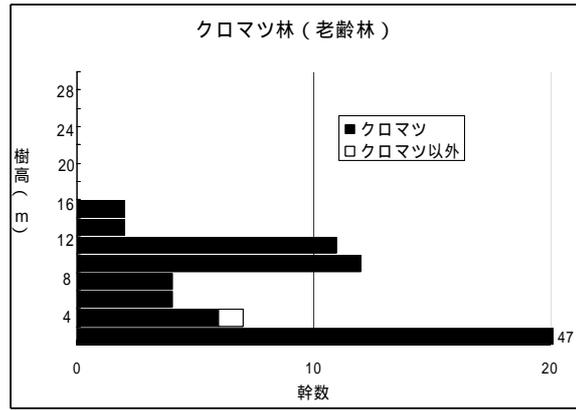
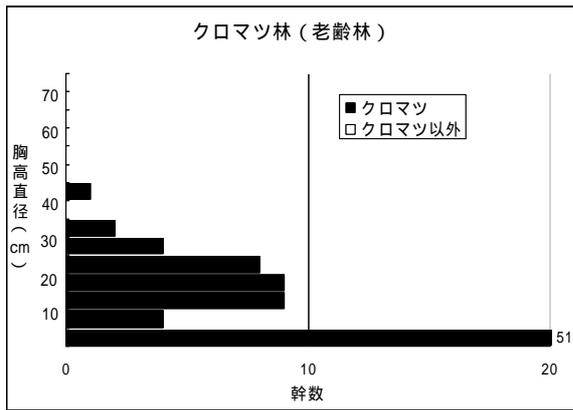


3. クロマツ林（老齡林）

主に調査地東側の内陸に多く、海岸近くでもみられる。樹齢80年以上のクロマツ林。樹高は立地により数m～24mまで幅がある。クロマツのみの純林が主に標高30m以上に多く、それより低い標高では低木層に広葉樹が繁茂している林が多い。

現存植生図・・・凡例番号：3（茶色）





4. クロマツ林（壮齡林）

主に海岸近くに多く、調査地東側の海岸近くにまとまって分布する。樹齡20年以上80年未満のクロマツ林。樹高は8m程度。

現存植生図・・・凡例番号：4（黄土色）



5. クロマツ林（幼齡林）

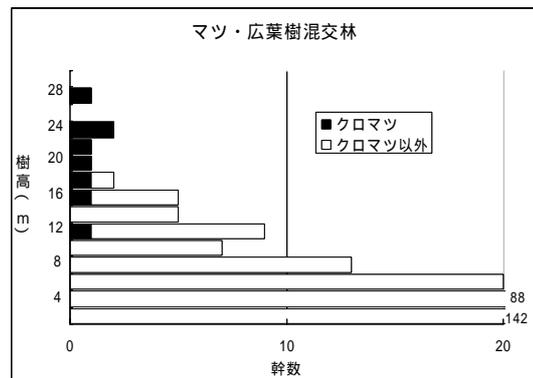
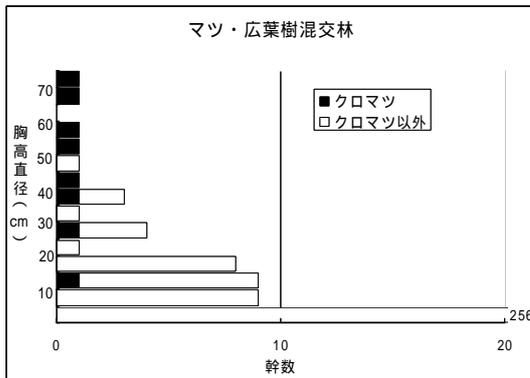
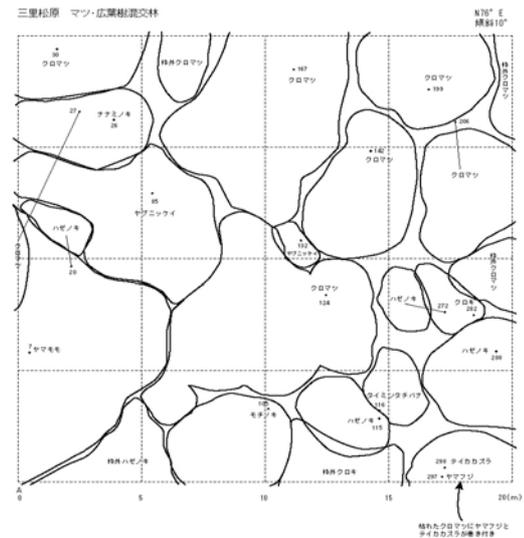
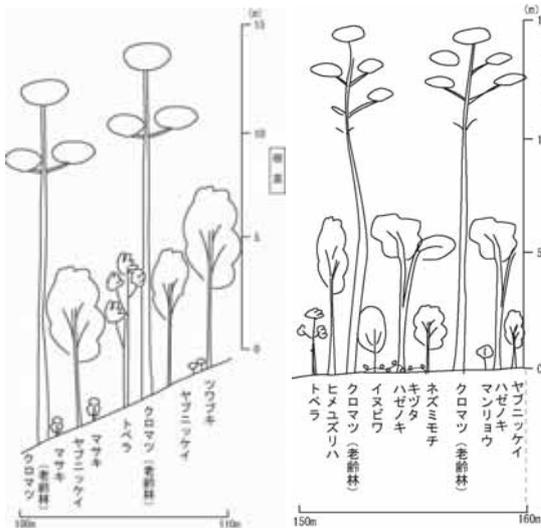
主に海岸に接するように帯状に分布し、内陸部の山火事跡地でもみられる。樹齡20年未満のクロマツ林。樹高は4m以下。樹高が4m程度では樹冠がふさがって林内は暗く、下層の植物はほとんどない。樹高が1m程度の植林直後の場所では樹冠が空いており裸地もみられる。

現存植生図・・・凡例番号：5（だいだい色）



6. マツ・広葉樹混交林

クロマツが樹高20m前後で粗に生育（植被率50%以下）し、10m前後にクスノキ、ハゼノキ、ナナミノキ等が50%程度で生育する二段林の景観を示す。
 現存植生図・・・凡例番号：6（ピンク色）



8. モウソウチク・マタケ林

調査地東側の南向き斜面で、住宅地に接するようにモウソウチク林が1箇所みられる。

現存植生図・・・凡例番号：8（黄色）

9. 路傍雑草群落

汐入川沿いの道路跡地に1箇所みられる。ギョウギシバ、セイタカアワダチソウが生息する。

現存植生図・・・凡例番号：9（はだ色）



[戻る](#)